

生涯学習係 地域と学校の連携により、さらなる教育活動の充実を目指して

第2期群馬県教育振興基本計画(取組38)には、「すべての小・中学校において学校支援センターの機能を一層充実させ、学校・家庭・地域が連携した学校づくりを進める…」とあります。

利根沼田管内では、学校の求めに応じた地域の方の支援により、様々な教育活動が行われ充実してきています。その一方で「地域の方と連携して、さらに教育効果を高めるには、どうすればよいのか」という声も聞かれます。そこで、今回は、「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」での事例発表から参考となる実践を紹介します。



片品中学校の実践例：『国語科（書写指導）で村書道協会3名の方が協力』

事前に支援ボランティアの方へ打合せ用紙を使って、本時のねらいや活動内容を伝えています。

打合せでは、支援ボランティアの方に「どんな場面で何をしてもらうのか」を明確に伝えます。

本時のねらいは『これまで学習した行書の特徴を意識して配列よく書く』ということです。

配列よく書くために、生徒にどこを工夫すればよいのか考えさせたいので、1枚書き終えて自己課題を見つけたところでアドバイスをお願いします。



行書は、墨を付けたら一つの字を一気に書き上げるので、他の字とのバランスをとるのが難しいですね。

分かりました。他の人たちにも伝えます。

授業では、一人一人の課題を把握し、支援ボランティアの方と協力しながら指導します。

月の字は他の字より画数が少ないので、バランスをとるのが難しいのですが…



あっそうか！字のバランスと全体のバランスが分かった気がするので、ためしてみます。



あなたは、月の字の形をもう少し細く書くといいですね。そうすると白い隙間ができて他の字とバランスがとれて、とてもよくなると思います。

おっ！バランスがよくなってきましたね。いい字ですね！！



授業後は、支援ボランティアの方の意見や感想等を聞いて今後に生かします。

一人一人に対応したアドバイスをありがとうございました。みなさんのおかげで、最初に書いた字と最後の字を比べるとすべての生徒が上手になったのがよく分かります。生徒たちは、何回も褒められたので、とても喜んでいました。



今後も書写では、一人一人の活動をさらに充実させていきたいので、多くの方の御協力をお願いします。本日は、大変ありがとうございました。

子どもたち一人一人の字には、味わいがあったんです。場面ごとに先生が一声かけてくれたので、話すタイミングが分かり、スムーズに教えることができました。私たちも大変勉強になりました。次回を楽しみにしています。



生徒一人一人の意欲が高まり、支援ボランティアの方のやりがいにもつながっています。このような活動を継続していくためには、学校として組織的な取組が重要です(学社連携推進担当教諭の出番です)。

片品中学校で取り組んでいることをお伝えします。



学社連携推進担当

- 全職員で教育活動や活動記録を見直して、必要なニーズを掘り起こしています。
- 年度初めに学校支援センター年間指導計画を基に全職員で共通理解を図っています。それを支援ボランティアの方にも配付して準備等に役立ててもらっています。

これからも学校支援センターの機能を生かして、学校と地域が手を携え、子どもたちの活動を充実させていきましょう。